

## 沖縄県におけるつつが虫病研究についてのご説明

### 1. 研究の目的

沖縄県におけるつつが虫病は 2008 年に第 1 例が報告されて以来、2019 年までに 32 例が報告されており、うち 13 例（41%）は髄膜炎を合併するなどの臨床的特徴を有しています。本症の早期診断、治療、予防は公衆衛生学的に重要な課題となっております。本研究は今後のつつが虫病の早期診断、予防に資する提言を行うことを目的とします。

### 2. 研究の方法

1) 採血ならびに痂皮からの遺伝子検査 病院受診時あるいは入院時に得られた採血（全血）、痂皮から病原体（*Orientia tsutsugamushi*）の遺伝子情報を精査します。また採血にて得られた血清を専門機関に送付して血清型を調べます。

#### 2) 臨床情報

実際に罹患された方の患者情報（バイタルサイン、基礎疾患など）を収集し解析します。

### 3. 留意いただくこと

この検査は無償で行われ、研究参加者への報酬はありません。検体採取に際して、万が一何らかの障害が生じた場合には保険診療の範囲で適切な治療を行います。

いったん研究への参加に同意しても、研究の期間中には研究責任者に申し出ていただくことで、いつでも同意を撤回できます。研究者には検査方法を開発した施設やその他の関係者との研究に関する利益相反はありません。

### 4. 研究結果の公表

本研究で得られた結果は、学会や学術誌等で公表する予定です。分析データのみを公表し、研究参加者の個人が特定されることはありません。

<問い合わせ先>

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 感染症内科

成田 雅

narita\_masashi@hosp.pref.okinawa.jp